

彦根愛知犬上地域における 新ごみ処理施設整備事業

～検討・進捗状況について～

皆さま、こんにちは

彦根愛知犬上広域行政組合管理者の田島一成です。

本日は、彦根愛知犬上地域の新しいごみ処理施設の整備について、令和8年1月に好気性発酵乾燥方式の採用を中止することが決定してから、現在までの状況について住民の皆様にお伝えするため、この動画を配信いたします。

それでは、スライドとともに説明を進めてまいります。

新ごみ処理施設整備に係るこれまでの経過

-
- 2025(令和7) 2月 ●広域行政組合議会にて、**好気性発酵乾燥方式の採用を前提とした実証実験予算が可決**
- 2025(令和7) 5～6月 ●交付金要件拡充の要望
①施設内で固形化せずにフラフで販売、**民間事業者が固形化する形を交付金対象に**
②好気性発酵乾燥方式の**交付率1/2への引上げについて、環境省から困難と回答**
- 2025(令和7) 6～7月 ●管理者会議の開催(全3回)
※今後の組合**事業方針(好気性発酵乾燥方式の採用中止)**について協議
- 2025(令和7) 8月 ●広域行政組合議会にて**好気性発酵乾燥方式の実証実験に係る予算の減額補正案が否決**
- 2025(令和7) 10～12月 ●好気性発酵乾燥方式の**関係事業者への意向調査を再実施**
※事業性や技術面での課題が明らかとなり、解決の見通し立たず
- 2026(令和8) 1月 ●広域行政組合議会にて、**好気性発酵乾燥方式の実証実験に係る予算の減額補正案が可決**

詳しい経緯は過去の動画でもお伝えしております。
概要欄のリンクからご覧いただけます。

まずはじめに、これまでの経過について、おさらいとして簡単にご説明させていただきます。

新しいごみ処理施設の建設候補地が、彦根市清崎町の西清崎に決定され、施設整備における「1市4町の財政負担を抑えること」および「環境負荷をできるだけ小さくすること」を目的として、令和4年より「好気性発酵乾燥方式」の検討をはじめ、その後、導入に向けた調査・検討が進められ、令和7年2月の組合議会定例会では、これを前提とした実証実験の予算が可決されました。

しかし、「好気性発酵乾燥方式」の協議を進めていくなかで、事業性や技術面等での課題が明らかとなり、課題を解決する見通しが立たなくなったことから、令和8年1月に開催した組合議会臨時会において、実証実験に係る予算の減額補正が可決され、好気性発酵乾燥方式の検討を中止することを決定しました。

これまでの詳しい経過については、前回のYouTube動画にて配信しておりますので、よければ是非ご視聴いただきますようお願いいたします。

現在の進捗状況および新たな課題について

好気性発酵乾燥方式の採用中止を決定

今後は、

- 熱回収方式を基本とした施設構成
- 1市4町の財政的負担を軽減できるよう検討

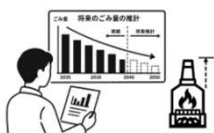


費用縮減のために、

- 整備費に大きなウェイトを占める焼却炉の規模を検討



1市4町に将来ごみ量の精査依頼
それを基に、規模を検討中



そんな中
新たな課題が

【地先の安全度マップ更新】

建設候補地付近の宇曾川にて、左岸堤防の破堤(決壊)リスクが示された。



安全性等について要確認



好気性発酵乾燥方式の検討中止を決定してから、当組合では、新ごみ処理施設のごみ処理方式について、多くの自治体で採用されている「熱回収方式」を基本とし、1市4町の財政的負担を軽減できるよう、可能な限り施設建設費の費用縮減を図るための検討を進めることにしました。

そこで、費用縮減の効果が特に期待できる「焼却炉の規模」に着目しました。新しい焼却炉の大きさについては、将来にわたって発生するごみ量を見極める必要があります。そのため、最新の人口推計を用いた1市4町の将来人口の整理とごみ排出量予測を整理し、必要となる焼却炉の規模について、現在、精査を進めているところです。

こうした検討を進めていたところ、西清崎の建設候補地において、新たな課題が明らかとなりました。

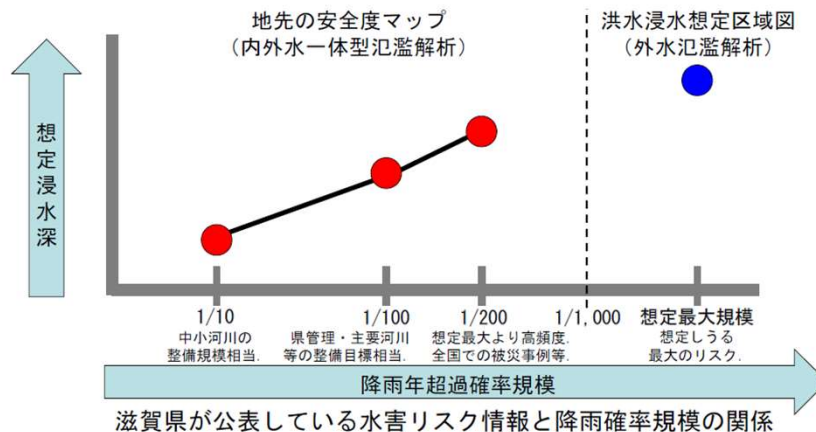
令和8年6月24日、滋賀県が公表した「地先の安全度マップ」において、建設候補地近くの宇曾川について、200年に一度程度の大雨を想定した場合となりますが、左岸堤防が破堤することが示されました。

この新たに判明した事実を踏まえ、西清崎で整備を進める場合に、破堤によって周辺地域や施設にどの程度の浸水や被害が想定されるのか、また、新ごみ処理施設の整備にどのような影響が生じるのか、現在、詳細な確認を進める準備に取り組んでいるところです。

次に「地先の安全度マップ」について、ご説明させていただきます。

はじめに：地先の安全度マップとは

- 本県では、水害（浸水）リスク情報として、以下を公表してきた。
 - ① 洪水浸水想定区域図：水防法に基づく、外水（河川からの氾濫）のみの想定最大規模のリスクを示す。
 - ② 地先の安全度マップ：滋賀県流域治水の推進に関する条例に基づく、外水と内水（水路の排水不良等による氾濫）両方の多段階のリスクを示す。
- 「地先の安全度マップ」は、概ね5年ごとの更新が条例で定められており、現行のものは令和元年度に公表された。今回、モデルを見直して更新を図るものである。



出典：洪水浸水想定区域図および地先の安全度マップの公表に向けた説明会【滋賀県】

「地先の安全度マップ」は皆さんが住んでいる場所や働いている場所が、大雨によってどの程度浸水する恐れがあるかを示したものであり、大きな河川だけではなく、中小河川や農業用排水路など身近な水路の氾濫も考慮したものです。

この「地先の安全度マップ」は、概ね5年ごとに更新することが滋賀県の条例で定められており、令和元年度に公表されたものが、今回、新たに更新され、令和8年6月24日に公表されたところです。

地先の安全度マップの特徴

多段階の水害リスク情報を示している



浸水する頻度 高



浸水する頻度 中



浸水する頻度 低
規模の大きい洪水

異なる規模の降雨による水害リスクを把握することが可能！

「1/10年確率の雨」：大雨時において比較的早い段階で浸水する場所が確認可能

→ 土地利用、水災害リスクを踏まえたまちづくり
避難が必要な箇所や避難経路の把握にも役立てられる

「1/200年確率の雨」：大雨時において規模の大きい洪水が発生する場所

→ 安全な住まい方の工夫に利用
避難が必要な箇所に役立てられる

出典：洪水浸水想定区域図および地先の安全度マップの公表に向けた説明会【滋賀県】

「地先の安全度マップ」は、浸水被害を段階的に確認できるものとして作成されています。左側の10年に一度程度の大雨とした場合には、頻度が高まるものの、浸水の被害規模はさほど大きくはならない予想と右側の200年に一度程度の大雨とした場合には、頻度は低くなるものの、浸水の被害規模が大きくなることが予想されるといったマップで、10年、100年、200年に一度程度の大雨が降った場合を想定し、それぞれの場所で、どのくらいの深さまで水に浸かる恐れがあるのかを、確認することができるものとなっています。

解析結果の分析（地形の変化）

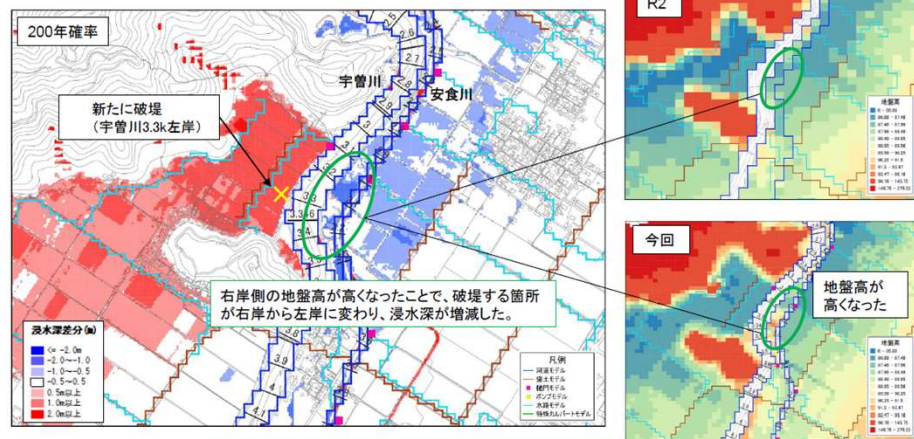


6

◆地形の変化

- 一部河川の河道沿いで浸水深の減少が確認された。
- 地盤高データを更新したことにより最新の地形状況が反映され、**地盤高が高くなったことで破堤する箇所が変わり浸水深が増減した**と考えられる。

宇曽川下流



宇曽川下流で地形の変化による影響が確認された。

出典：洪水浸水想定区域図および地先の安全度マップの公表に向けた説明会【滋賀県】

こちらが、今回更新された「地先の安全度マップ」における建設候補地周辺の状況です。

このマップでは、200年に一度程度の大雨が降った場合に、宇曽川の破堤箇所が、これまで右岸側であったものが、左岸側が変わったことが示されており、浸水の深さも変化していることが確認されています。

現在、当組合としては、新たに示された浸水リスクに対して、西清崎で新ごみ処理施設を整備する場合に、施設やごみの搬入・処理などにどのような影響が生じるのか、また、どのような浸水対策が必要となるのかについて、詳細な検討を進めていきます。

- ◆ 「地先の安全度マップ」の更新により、建設候補地（西清崎）至近の宇曾川左岸堤防に、新たな破堤リスクが示された。
- ◆ このことから、施設そのものが浸水するかどうかという視点だけではなく、破堤により周辺地域や施設にどこまで影響があるか、また、ごみ処理施設として安定的・継続的な機能を確保できるのか確認する必要性が生じた。
- ◆ 一方、新ごみ処理施設については、現有施設の稼働状況を踏まえ、一日も早い供用開始が求められていることから、西清崎を建設候補地として引き続き進められるかを検討するとともに、他の用地も視野に入れて整理する必要も生じた。

最後に、今回の報告の内容をまとめさせていただきます。
今回、新たな破堤リスクが明らかになったことで、より慎重な検討が必要となりました。

一方で、新ごみ処理施設を一日も早く整備する必要もあります。

こうしたことから、今後は西清崎における安全性を確認するとともに、他の用地も視野に入れて、安全性、財政負担、早期整備の可能性などを総合的に見極めてまいります。

以上、現在までの検討状況についてご説明いたしました。

今回の報告では、新たな課題が発生したことをお伝えしました。
住民の皆さまには、ご心配をおかけすることかと存じます。
しかしながら、安全性をしっかりと確認しながら、一刻も早い新ごみ処理施設の整備に向けて、これからも真摯に取り組んでまいります。

引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。

ご視聴、誠にありがとうございました。